

理事会だより

第3回常任理事会議事録

日時 昭和37年8月13日(月) 17.00~21.00

場所 神田学士会館

出席者 松本・岸保・有住・吉武・桜庭・神山・今井・
正野・畠山・須田・淵 各理事(順序不同)

決議

1. 各担当の委員は別紙のとおりお願いする。
2. 気象研究ノート80周年記念号の執筆者は別紙のとおりお願いする。
3. 秋季大会の会場を気象大学校にお願いする。

4. 気象集誌のバックナンバー(1944年12月以前)の
ジョンソン リプリントは差支えない。

5. 山本武夫氏の論文の英訳は差支えない。

6. 中国から1962~63年に派遣は困難という通知に対して
交流委員会から返事を出す。

また日中友好協会へ理事長名で礼状を出すこの記事を「天気」にのせる。

7. 日本地学教育学会全国大会で当学会の名義使用は
差支えない。

日本気象学会第12期各担当役員ならびに委員一覧表

- | | | |
|--------------|------|---|
| 1. 庶務担当 | 理事 | 淵 秀隆・増田善信・村上多喜雄 |
| 2. 会計担当 | 理事 | 吉武素二・委員 鈴木 徹・赤松英雄 |
| 3. 外国関係担当 | 理事 | 須田 健・委員 竹内清秀 |
| 4. 学会連合担当 | 理事 | 畠山久尚・岸保勘三郎 |
| 5. 気象集誌編集担当 | 理事 | 桜庭信一・委員 石原建二・内田英次・関 厚疆・竹内清秀・曲田光夫 |
| 6. 天気編集担当 | 理事 | 有住直介・委員 小林寿太郎・長尾 隆・藤井幸雄・山田 一・山口 協 |
| | 地区委員 | 北海道 唐津 進・東北 藤沢正義・関東 正務 章・関西 喜多村一男
九州 土井謙二 |
| 7. 気象研究ノート担当 | 理事 | 神山恵三・委員 栗原宣夫・林英之介・根本修・根本順吉・渡辺次雄 |
| 8. 講演企画担当 | 理事 | 今井一郎・神山恵三・委員 上松清・朝倉正・石原建二・大井正一・清水逸郎・
渡辺和夫・相厚正彦・武田武 |
| 9. 外国文献担当 | 理事 | 正野重方・桜庭信一・吉武素二・委員 伊東暈白 |
| 10. 国際学術交流担当 | 理事 | 岸保勘三郎・神山恵三・松本誠一・委員 藤田敏夫・荒井隆夫・当舎万寿夫 |
| 11. 学術担当 | 理事 | 松本誠一・村上多喜雄・増田善信 |
| 12. 賞及び奨励金担当 | 理事 | 増田善信・村上多喜雄 |

気象研究ノート80周年記念号内容一覧表

書名	項目	執筆者	脱稿期日割当枚数	備考
日本の天気 (松本理事担当)	(1)季節変化	須田 建	1962年10月 576枚×2部 =1152枚	Physical back-ground に要点をおきなるべく一般的に記述、基礎的な資料となるような解析的、統計的
	(2)梅雨と秋霖	村上多喜雄		
	(3)豪雨	石原 健二		
	(4)豪雪	福田喜代志		
	(5)台風	正野 重方		
	(6)各地の天気			

書名	項目	執筆者	脱稿期日割当枚数	備考
	(i) 北海道地方の海霧 (ii) 東北地方の低温 (iii) 北陸地方の不連続線 (iv) 関東地方の雷雨 (v) 関東地方の北東気流 (vi) 瀬戸内海の高陸風 (vii) 九州地方の不安定線	唐津進 和田英夫・安藤正次・松倉秀夫 藤田兼吉・川本敏夫・宮沢清治 島山久尚・北沢貞雄・野島弘 瀬下慶長 山本主夫 岡田英士		事実は尊重する。
地球の気象 (正野理事担当)	(1)大気 (2)大気放射 (3)大気大循環 (4)海空間のエネルギー交換 (5)太陽活動 (6)気候変動 (7)人工衛星気象 (8)両極地方の気候	北岡竜海・堀内剛二・沢田竜吉 山本義一 村上多喜雄・松本誠一・相原正彦 寺田一彦・半沢正男 関原疆・須田滝雄 荒川秀俊 山本義一・朝倉正 守田康太郎・有住直介	1963年1月 576枚×2部 =1152枚	他の惑星も含める。 成層圏内循環を含める。
降水機構 (今井理事担当)	(1)雲と降水の力学 (2)降水の物理 (3)降水の化学 (4)人工降雨 (5)降雪現象 (6)降水電気現象 (7)レーダー気象	正野重方 磯野謙治 駒林誠 高橋喜彦 孫野長治・樋口敬二 北川信一郎 今井一郎	1963年3月 576枚	
天気予報 (有住理事担当)	(1)予報の考え方 (2)経験則 (3)外挿法 (4)流す方法 (5)平均天気図 (6)類似天気図型の方法 (7)統計的方法 I 一相関 (8) // II一周期と持続性 (9)カテゴリー予報 (10)極東気候学の利用 (11)内因, 外因 (12)特殊予報 (13)量的予報 (14)雨量予報 (15)局地予報 (16)ファックスのプログノ (17)予報検討 (18)天気予報の利用法	有住有介 吉持昭 高橋浩一郎 有住直介 毛利圭太郎 根本順吉 久保木光熙 藤田敏夫 鈴木栄一 倉島厚 朝倉正 鯨井孝一 粕谷光雄 野口和則 渡辺和夫 増田善信 奥山巖 高橋浩一郎	1962年8月 576枚	観天望気, タイロス等を含む ブロードスケール予報解析を含む 判別法を含む モンスーン, シンギュラリテイーを含む 前線, 大雨, レーダーを含む

書名	項目	執筆者	脱稿期日割当枚数	備考
応用気象 (富士理事担当)	(1)水文気象			
	(i) 流域内の面積雨量の時間配分の決定法(山岳地帯の降水量)	正務章・藤田兼吉	1963年5月 576枚×2部 =1152枚	蒸発散を含む
	(ii) 雪測定法の問題	石原健二		
	(iii) 流量測定法の改善	竹内俊雄		
	(iv) 流量予報の研究	藤田兼吉		
	(v) 流域内の水収支の研究	正務章		
	(vi) ダムの運用に関する研究			
	(vii) 誤差に関する問題	畠山久尚・(藤田兼吉)		
	(2)大気汚染		1963年7月	
	(i) 大気汚染源	白沢忠雄・竹内郁夫		
	(ii) 大気汚染質の分析 サンプリング化学組成	森口実・山口裕		
	(iii) 大気汚染と気象・大気汚染の分布・大気汚染の予報	森口実・箕輪年雄・太田芳夫・橋本梅治		
	(iv) 大気汚染対策	伊東疆自		
	(3)生気候		1963年7月	
	(i) 気象病	柏木力		
	(ii) 季節病	糴山政子		
	(iii) 療養地の気候	神山恵三		
	(iv) 体を通じた熱収支	〃		
	(4)ジェット機のための航空気象	上松清・杉本豊・宇津木政雄	1963年5月	
	(i) ジェット機の運航とジェットストリーム			クリヤエア, タービュレンスを含む
	(ii) 成層圏			
	(iii) ジェット機のための気象資料の見方と読み方			
	(iv) ジェット機のための気象観測			
	(v) ジェット機の航法と気象			
	(vi) スーパーソニック型航空機の運航と気象			
	(5)海上気象	寺田一彦・半沢正男	1963年5月	
	(i) 海上気象学の発展と動向			
(ii) 海洋予報の発展				
(6)農業気象				
(i) 農業気象学の動向	荒井隆夫	20枚		
(ii) 農業気象学の方法		80枚		
a 接地気層の物理	久保祇夫			
b 環境気象	黒岩澄雄・三寺光雄			
c 農業気候	小沢行雄			

書名	項目	執筆者	脱稿期日割当枚数	備考
気象測器 (吉武理事担当)	d 農業気象災害	荒井隆夫	20枚 30枚 1963年7月	
	e 農業気象防災対策	神山恵三		
	(iii) 農業気象測器	根本茂・高橋克己・三寺光雄		
	(iv) 農業気象統計法	鈴木栄一・三寺光雄		
	(7)工業気象			
	(i) 工場立地と気象	久保次郎	1963年5月	
	(ii) 工場内の気象	〃		
	(iii) 設計と気候	〃		
	(iv) 工場管理と気象	〃		
	(v) 大気腐食	神山恵三		
	(8)災害気象			
	(i) 災害本質論	荒井隆夫・奥田穰	1962年10月	
	(ii) 災害理論			
	(iii) 災害統計			
	(iv) 解析と展望			
	(v) 気象災害の強度地域別襲来確率	渡辺次雄		
	(vi) 災害を起す気象要素の基準	正務章		
	(1)地上気象測器			
	(i) 気圧計	清水逸郎	360枚	
	(ii) 温度計	河野幸男		
	(iii) 湿度計	吉武素二		
	(iv) 風速計・風向計	矢島幸雄		
	(v) 特殊観測用測器	竹内清秀		
	(vi) 総合観測装置	須永明		
(vii) シーロメータ	天野一郎			
(viii) トランスミッツメータ	宗像明夫			
(ix) 日射計	藤本文彦			
(x) レーダ	下島省吾			
(xi) ロボット観測装置	藤原寛人			
(xii) 水晶時計	神戸正雄			
(2)高層気象測器				
(i) レーウィンゾンデ	北岡竜海	1962年10月		
(ii) オゾン、輻射露点ゾンデ		240枚		
(iii) トランソゾンデ				
(iv) ロケット観測測器				
(v) 商船上の高層観測				
(vi) スフェリックス				

気象研究ノート編集委員が編集を担当する。

理 事 会 便 り

第4回 常任理事会議事録

日 時 昭和37年9月10日(月) 17.00~21.00
 場 所 神田学士会館
 出席者 神山・吉武・今井・松本・岸保・増田・須田・
 正野・村上・宥住・畠山・淵 各常任理事 堀
 内 地方理事

決 議

1. 大会会場の大学校々舎の修理が11月一杯かかりそうなので、吉武、今井両理事が現地交渉で日程をきめる。
2. 11月17日、18日の新潟における東管との共催研究会には今井、松本両理事で相談の上出席者をきめる。
3. 理事長のあいさつ状とともに松本氏らの豪雨の論文別刷(50部)等を中国気象学会へ送る。同時に向うの文献の配布受領状況のリストを送り問い合せを行なう。
4. 日本学術会議第6期会員候補者として投票の結果次の2氏を推せんする。
 和 達 清 夫
 大 谷 東 平

日本気象学会気象研究ノート80周年記念号について

日本気象学会では80周年を記念して、気象研究ノートを倍増頁をして記念特集号を出版することになった。

これは大略過去5カ年ぐらゐの各部門での成果を平易に集約したもので、今後の発展の方向をさし示すものです。過去5カ年間にそれぞれの部門はどのように発展してきたか、そして現在の主要な問題はなにか、そして今後どう発達していくかという観点に立って執筆されていくものです。

各著者のご苦労はもちろんのこと、どうぞ全会員で盛りあげていく積りで、ご支援をお願い申し上げます。

気研ノート編集理事 神山 恵 三

◆ 執 筆 要 領

原稿の書き方(400字ずめを用いること)

1. 編、章については、次のように空間をあける。

□□□□	1 章
□□□□	1-1
□□□□	1)
□□□□	(1)

2. 文字、文体

(1)当用漢字、新かなづかい“校庭編気象用語”を標準として使用する。

- (2)字 体

ローマン使用の文字はなにもつけない。

イタリックの文字は“赤、で波線~をつける。

ゴザは赤で—をつける。ギリシヤは赤でかこむ。

- (3)数式、文字数については、次のようにする。

$x/a, P/T=R/V$ P_0 は P_{10} とかく。

- (4)文体は平がなまじり、平易な口語文章体。

3. 図表、写真

- (1)図番号は章ごとの通し番号。

- (2)横6.5cm, 13cmの2つとする。

- (3)坐標軸のみ面書き、ワグ取りはしない。図題、説明坐標の数字は鉛筆がきのこと、坐標軸の数字は縮尺を考えて墨入をする。図の位置の指定は原稿欄外に書く。

文 献

引用文献は、その箇所につけ、章の終りに記載。著者名; 年, 題, 雑誌名(略号), 巻, 号, (報文)著者名; 発行年, 書名, 出版社(著書)。